

学校 教育 目標	「チャレンジ！ なかよし！ 進んで学ぶ 東の子」			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進んで学び続け、考えを深め豊かにする子どもを育てます。(知)</li> <li>○ 自他の違いを認め合い、心豊かに生きる子どもを育てます。(徳)</li> <li>○ 心も体も健康な生活を実践し、自他の生命を大切に育てます(体)</li> <li>○ 地域とのつながりを大切にし、他者と協働して共に生きる子どもを育てます(公)</li> <li>○ 持続可能な社会の実現に向けて行動し、多様な変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。(開)</li> </ul>			
学校 概要	創立 49 周年	学校長 小田 和宏	副校長 谷口 佐智子	2 学期制
	児童生徒数: 383 人	主な関係校: 高田中学校、高田小学校		
		一般学級: 12		個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	高田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
言語能力 情報活用能力 問題発見・課題解決能力	高田中学校 高田小学校 高田東小学校	<p>「豊かな表現力の育成を目指して」</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報化社会を生きぬく能力を高めるための指導の実践」をサブテーマとして、情報教育を「情報活用能力育成モデル」により資質・能力で捉え直し、系統的に資質・能力を育成する実践をしていく。</li> <li>・小中の交流をすすめ、学校運営協議会を生かして地域や保護者とも連携して「あいさつ運動」や自分づくり教育をすすめる。</li> </ul>

中期 取組 目標	<p>「子ども一人ひとりの個性や多様性を尊重し、つながりを大切にした教育」を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちが、主体的に学習に取り組む授業づくりを進めます。</li> <li>○子どもたちが、安心して自分を表現できる学級風土づくりを進めます。</li> <li>○子どもたちが、安全に、健康の保持増進と体力向上を目指して学ぶ健康教育を進めます。</li> <li>○子どもたちが、持続可能な社会の実現に向かったり、自分の夢や目標に向かったりする取組を推進します。</li> </ul>
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①重点研究を柱に日々の学習で「進んでやる」「追求する」「思いを伝え合う」子どもの姿を目指す。ブロック研修や教科担当制の中で、学習の積み重ねや目標を共有したり、変容を実感できるようにするための手立てや教材等の工夫を行ったりする。②学力学習状況調査での分析を学習指導充実に生かすため、教職員間で連携して検証・改善を図る。
徳 人権教育	①呼名の仕方、挨拶・返事・言葉遣いを徹底する。また、「聴く」ことを大切に指導を行い、自他の違いを認め合う心情を育てる。②日々の学習においてペア学年での活動を取り入れ、相手を思いやる心情を育てる。③子どもが自主的に活動に取り組むことができるように、委員会活動を充実させるとともに、計画的に代表委員会を実施し、充実した意見交換、話し合いを目指す。
体 健康教育	①一校一実践の取組や体育学習の充実を図るとともに、芝生養生期間の取組を工夫して運動に取り組む環境をつくる。②「食に関する指導の全体計画」を整備し、健やかな体の育成を目指した健康教育を推進する。③家庭と連携し、けんこう会議等児童会活動を通して、子ども自身が健康の保持増進に向かう姿を目指す。
公 開 自分づくり教育	①「基礎的・汎用的能力」を、児童の発達段階や学校・地域の特色をふまえて設定し、自分づくり教育(キャリア教育)全体計画を作成する。②自らの学習状況を見通したり振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるように、「自分づくり(キャリア)パスポート」を活用する。
いじめへの対応	①月1回のアンケートにより、児童の人間関係を把握し、早期発見に努める。また、子どもが自分の経験と重ねて道徳的価値を自覚する道徳学習を進め、温かな学級風土づくりによっていじめの未然防止を図る。②毎月の情報共有・いじめ防止対策委員会を通して組織的な児童の見守り体制を行うとともに、児童の人間関係の変化やいじめに対する全教職員の感度を高める研修を充実させる。③スタンダードを全職員で共有し、指導の意図を明確にして一貫共通した指導を行う。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員でメンターチームを組織し、教科領域の指導法、学級経営、児童理解等をテーマにして、月1回の活動を継続して行う。②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革を推進していく。③教職員のキャリアステージに応じた校内外の研修を推進する。
特別支援教育	①教科担任制を生かして、子どもの様子や見とりを学年やブロックで共有する。ユニバーサルデザイン等学習環境についても理解を深めて学年やブロックの統一を図る。②配慮が必要な子どもへの対応の仕方や授業づくりについて、学年やブロック全体で考え、誰もが分かる授業づくりを目指す。③Y-Pアセスメントを効果的に活用して、子ども一人ひとりや集団の実態を把握するとともに、個別の指導計画や教育支援計画を活用して個に応じた支援及び合理的配慮を行い、特別支援の日常化を目指す。
地域学校協働活動	①児童が「人・もの・こと」とのつながりを感じられるように、地域や中学校ブロックと連携・協働した取組の充実を図る。また、地域の材の積極活用を図るとともに、理解を得るための適切な情報発信を行う。②地域学校協働本部との連携により、地域や保護者の方が教育活動に携わる場面を広げ、さらに社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
GIGAスクール構想	①ICT機器の整備・活用・情報発信方法・データの整理について、学校内でルールを明確にする。②学習支援や授業改善の場面でICT機器を積極的に活用し、「多様な子どもたち一人ひとりに合った学び」と「多様な他者と協働する学び」の充実を図る。
教育環境整備	①校内の安全点検や設備状況調査を定期的に行い、破損個所の修繕等、環境整備に努めるとともに職場環境の改善を図る。②児童が使用する教材や設備等については、授業計画段階で安全管理マニュアル等を積極活用し、教職員間で共通認識をもった上で、安心安全な運用を継続的に行う。③教育予算の執行計画を全体で共有し、優先する環境整備について共通理解を図る。